

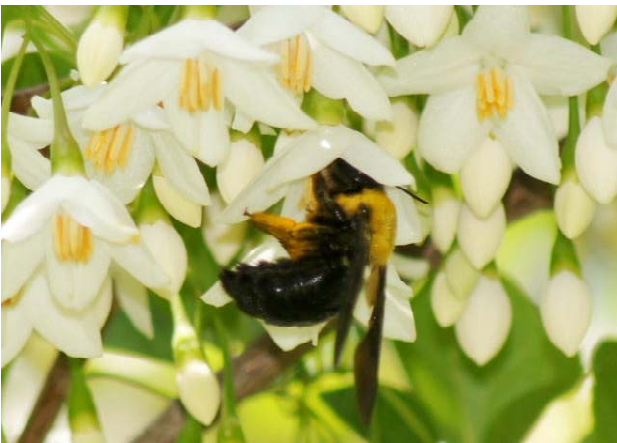
牛久：学校周辺に見る自然

第4号 ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小）

2013年5月22日発行

＜ 春の生きもの観察 ～みずべ公園 ①エゴノキの花に集まる昆虫たち ＞

ひたち野うしく小4年生は、5/14に1,2組が、5/16に3,4組がみずべ公園に春の生きもの観察に出かけました。そこで見られた生きものたちを、紹介していきましょう。



甘い香りを漂わせながら、たくさんの白い花をぶら下げるエゴノキ(上)と、その蜜を吸うクマバチ(下2枚)。

観察が始まって、まず最初に目についたのは、甘い香りを漂わせながらたくさんの白い花をぶら下げたエゴノキ。そしてその蜜を求めてやってきたクマバチでした。大きな体に「ぶ～んッ」という大きな羽音でこわい感じがしますが、クマバチはミツバチと同じくらいおとなしいハチです。オオスズメバチのことを「クマンバチ」とよぶ地域もあるので誤解されやすいのですが、つかんだりしなければ刺されることはありません。私がすぐ近くで指さしても、知らんぷりで蜜を吸っていましたね。



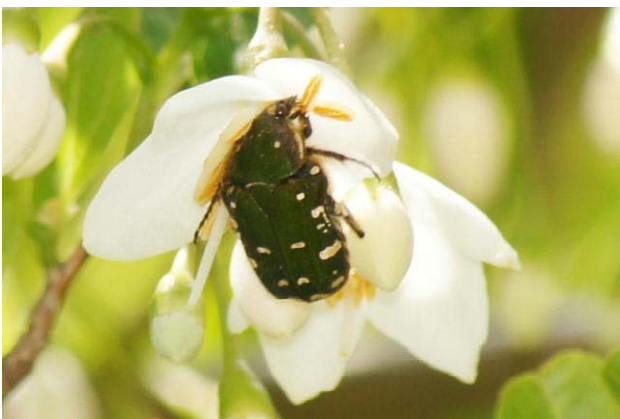
蜜を吸い、花粉を集めて、後ろあしに「花粉団子」が目だつコマルハナバチのメス。

よく探すと、もっと小型の別のハチもいました。体が丸くて花に来るので、この仲間をマルハナバチとよびますが、写真はコマルハナバチのメス。後ろあしの花粉かごには、たっぷりの花粉が入ってお団子だんごのようですね。このお団子は、巣すに持ち帰って保存食にするそうです。



頭をつっこんで、長い時間にわたり蜜を吸い続けたセイヨウミツバチ。

セイヨウミツバチも来ていました。頭をつっこんで蜜を吸っていました。よほどおいしいのか、けっこう長い時間吸い続けていました。



ハチのほかに、甲虫こうちゅうもいました。花にもぐり込むように花粉を食べるのでこの仲間をハナムグリとよびますが、写真はコアオハナムグリ。その名の通り緑色をしたものが多いですが、茶色に近いものまでいろいろです。人に気がつくとさっと移動いどうしますが、そうでないと長い時間食べ続けます。頭など、花粉がいっぱいですね。別の花に移動したときに、この花粉がめしべめしべについてよい種子たねができます。花は甘い香りを出して虫たちを誘い、蜜や花粉を食べられながら、花粉を運んでもらっているのですね。【理科支援員：宮内】
花粉を食べ、頭から花粉だらけのコアオハナムグリ。体色は緑から銅色までである。